神奈川県考古学会
考古かながわ 第60号

『大磯の歴史と明治記念大磯邸園』

大磯町都市建設部都市計画課　東 真江

相模湾に面し、温暖な気候の大磯町内に現存する明治期から昭和期の邸宅・庭園は、個人や企業が所有しており、普段見られるものは、県立大磯城山公園内にある旧吉田茂邸や旧島崎藤村邸などごく限られています。昨年閣議決定された「明治記念大磯邸園」の整備により、さらに大磯の邸園文化をお楽しみいただけるようになります。

では、多くの別荘が建築された大磯の歴史を振返ってみましょう。

【大磯は古代から交通の要所だった】

大磯町内の特徴の１つに、古墳時代後期の横穴墓の数が全国的に比べても異様に多い状況があります。6～7世紀の古墳群や横穴墓群は新しい社会体制の表徴と考えられますが、大磯の状況は陸海を通じた盛んな人の往来の表れかもしれません。

律令時代に入り、大磯には【古代東海道】が通り、平安時代後半に平塚におかれていた相模国府が移転し、「余綾国府」が置かれました。大磯町内には「国府本郷」「国府新宿」の地名が遺り、国府本郷の馬場台遺跡では、白磁や青磁などの11～12世紀頃の舶来陶磁器が散布していることから、「余綾国府」推定地とされ、地方行政の中心地の１つが大磯にあったと考えられます。

【中世鎌倉街道と文学】

平安時代の終わり、鎌倉時代初頭の大磯には文学界のスターが登場します。１人は歌人の西行法師、もう一人は『曽我物語』の虎御前です。西行法師が和歌を詠んだとされる大磯の鴫立沢は室町時代には観光スポットとなり、江戸時代から現在まで俳諧道場を営む文学的拠点となりました。虎御前は鎌倉街道大磯宿の遊女とされ、大磯町高麗に「化粧井戸」や寄進した寺などの伝承を遺しています。鎌倉と京都を結ぶ鎌倉街道の宿場として大磯の繁栄が偲ばれます。

滄浪閣（昭和時代）

【江戸宿場町としての発展】

徳川家康が幕藩体制を整える上で、五街道の整備と伝馬の継立場である宿場の整備が行われ、大磯宿には３軒の本陣と４軒の大旅籠などの宿泊施設が設けられました。現在も俳諧道場鴫立庵、東海道松並木や一里塚がなどの風景が残されています。

【明治時代以降の「政財界の奥座敷」別荘群】

「8人の元勲が住んだ町」ともいわれる大磯町の、最も早い別荘例の一つに吉田茂の父吉田健三が明治17年に建てた別荘があります。その後、明治30年、伊藤博文が小田原の別荘「滄浪閣」を移転し本邸とし、伊藤邸を中心に別荘が立ち並ぶようになります。伊藤博文の滄浪閣の周りには、大磯で日本の海水浴を始めた松本順、樺山資紀、山縣有朋、陸奥宗光、大隈重信、西園寺公望、寺内正毅、木戸孝一、梨本宮家、安田善次郎、岩崎弥之助といった明治政財界の主要メンバーがそろっており、「大磯で閣議ができる」と言われたほどです。こうした背景には、汽車の東海道本線が通り、「大磯駅」が開設され、東京から通い易かったことが大きな要因であったと考えられます。

現在、国は、平成３０年が明治元年から起算して満１５０年に当たることを踏まえ、「明治１５０年」

関連事業として、明治期の立憲政治の確立等に関する歴史的遺産の保存及び活用を行い、一体的な空間として後世に伝えることを目的として様々な事業が行われます。この一環として、「明治記念大磯邸園」は、大磯町西小磯【旧伊藤博文邸】、旧古河別荘に遺されている【大隈重信別荘、陸奥宗光別荘】等を中心とする建物群等を整備し、国、県、町の連携のもと一体的な保存・活用が図られる予定で、10 月には、「明治 150 年記念公開」として、一部区域が公開予定とのことです。大磯町内に遺された明治時代から現在も生きる建物群を見ることで、各々が歴史を考えるための体験学習の場となることが期待されます。

2017 年度総会報告

2018 年度の神奈川県考古学総会が、2018 年 5 月 12 日 (土) に開催されました。岡本会長の挨拶で開会、総務 脇氏の司会により、議長が会則 11 条 3 項により選出され、議案が勧められました。すべての議案について承認されましたので、ここに報告します。

議事 1：2017 年度事業報告

【総務】2017 年 5 月 13 日 (土)2017 年度神奈川県考古学会総会を開催。役員会、幹事会を 2016 年 4 月 18 日、7 月 19 日、9 月 20 日、11 月 15 日、2018 年 1 月 17 日、3 月 14 日の、6 回実施。【会誌】『考古論叢神奈河』23 集 (2014 年度分) を発行。【連絡誌】『考古かながわ』58 号を 2017 年 9 月 22 日、59 号を 2018 年 2 月 10 日に発行。【講座】2018 年 3 月 4 日「謎の敷石住居の現在」開催 (会場：横浜市歴史博物館講堂)、参加 105 名。資料『謎の敷石住居の現在』平成 29 年度神奈川県考古学会講座要旨集を刊行。【発表会】2017 年 10 月 22 日第 41 回神奈川県遺跡調査・研究発表会開催 (於：横浜市歴史博物館講堂)、参加 105 名。【見学会】第 1 回 2017 年 7 月 22 日「発掘された日本列島 2017」展の見学 (会場：東京都江戸東京博物館)、参加 21 名。第 2 回 2017 年 11 月 4 日「神奈川の弥生時代遺跡を知る」(会場：綾瀬市神崎遺跡資料館、海老名市河原口坊中遺跡遺物、史跡相模国分寺跡)、参加 16 名。第 3 回 2017 年 12 月 23 日 かながわの遺跡展『群集する古墳ーかながわの古墳時代終末期を考えるー』(会場：横浜市歴史博物館)、参加者 31 名見学。【ホームページ】Web 版「考古かながわ」の管理・運営。【既刊行書籍の PDF 化】連絡誌『考古かながわ』1 ～ 59 号の公開。保管期間の経過した本会刊行物について、著作権処理の済んだ刊行物から順次ホームページ「全国遺跡報告総覧」上で公開 (2018 年 3 月 31 日現在 49 冊分公開)。

議事 2：2017 年度収支決算報告

2017 年度収支決算について収入と支出の内訳の説明 (3・4 頁参照)。続いて監事による会計監査報告。

議事 3：2018 年度事業計画

【総務】2018 年 5 月 12 日 (土)2018 年度神奈川県考古学会総会開催。幹事会・役員会を各 3 回 (計 6 回) 程度開催。会計管理、刊行物管理・販売。2018 年 4 月 14 日 (土) 日本旧石器学会ワークショップ：「神奈川旧石器遺跡マッピングパーティー」を共催。【会誌】『考古論叢神奈河』24 集 (2015 年度分) 刊行済、第 25~27 集刊行予定。【連絡誌】『考古かながわ』第 60 号、第 61 号の発行。【講座】2019 年 1 月 20 日 (日)「(仮) 月見野遺跡発掘調査から 50 年」(会場：大和市やまと芸術文化ホール サブホール (大和市文化創造拠点シリウス内)) 開催予定。【発表会】2018 年 11 月 18 日 (日) 第 42 回神奈川遺跡調査・研究発表会を開催。会場は秦野市堀川公民館。【見学会】県内を中心に発掘調査現場、博物館等で年 3 回程度開催。【ホームページ】web 版「考古かながわ」の充実化。【既刊行書籍の PDF 化とネット公開】昨年度に引き続き、著作権処理が済んだ刊行物・保管期限経過の刊行物について、順次「全国遺跡報告総覧」上で公開。

議事 4：2018 年度収支予算

2018 年度収支予算について収入と支出の内訳の説明 (5 頁参照)。

最後に、副会長からの挨拶があり、閉会となりました。

かながわ考古学トピックス 2018：

本会では、宇都洋平氏、東真江氏からご講演をいただきました。

宇都氏「藤沢市宮前における中世前期の歴史的景観について－未報告資料の常滑窯製品の紹介とともに－」というテーマでお話がありました。周辺住民の聞き取りや昭和期の開発にともなう記録の整理、現状の地域環境から失われた地形及び遺跡の存在を考察されました。

東氏からは、本年は明治 150 年を記念することから、「明治記念大磯邸園」というテーマで大磯の別荘文化の変遷と歴史的な位置付けについて発表されました。また、大磯町で今後の整備される明治記念大磯邸園の構想についてのお話がありました。

議事2　2017年度収支決算報告・会計監査報告

2017年度収支決算書

（収入の部）

節	予算額	決算額	比較増減額	説明					
会費	933,000	933,000	0	本年度会費		3,000 ×	258	名＝	774,000
				次年度会費		3,000 ×	9	名＝	27,000
				旧年度会費		3,000 ×	44	名＝	132,000
機関誌等売り上げ	310,000	249,360	▲ 60,640	発表会要旨　（内訳）					80,000
					40回要旨（会員）	500 ×	1	部＝	500
					40回要旨（一般）	1,000 ×	2	部＝	2,000
					40回要旨（委託0.7）	700 ×	10	部＝	7,000
					41回要旨（会員）	500 ×	49	部＝	24,500
					41回要旨（一般）	1,000 ×	39	部＝	39,000
					41回要旨（委託0.7）	700 ×	10	部＝	7,000
				考古論叢　（内訳）					58,200
					論叢21（会員）	500 ×	1	部＝	500
					論叢21（一般）	1,000 ×	3	部＝	3,000
					論叢21（委託0.8）	800 ×	5	部＝	4,000
					論叢22（一般）	1,000 ×	3	部＝	3,000
					論叢22（委託0.8）	800 ×	4	部＝	3,200
					論叢23（一般）	1,000 ×	23	部＝	23,000
					論叢23（委託0.8）	800 ×	25	部＝	20,000
					論叢23（会員）	500 ×	3	部＝	1,500
				講座要旨　（内訳）					111,160
					講座災害（委託0.8）	560 ×	1	部＝	560
					講座時空（会員）	200 ×	1	部＝	200
					講座時空（一般）	500 ×	4	部＝	2,000
					講座時空（委託0.8）	400 ×	4	部＝	1,600
					講座相模国（共通）	400 ×	1	部＝	400
					20周年記録集（会員）	250 ×	2	部＝	500
					20周年記録集（一般）	1,000 ×	1	部＝	1,000
					2015講座縄文祓い（会員）	500 ×	4	部＝	2,000
					2015講座縄文祓い（一般）	1,000 ×	9	部＝	9,000
					2015講座縄文祓い（委託0.8）	800 ×	3	部＝	2,400
					2017講座敷石（会員）	500 ×	67	部＝	33,500
					2017講座敷石（一般）	1,000 ×	58	部＝	58,000
雑収入	500	1,430	930	預金利子、無償配布図書送料　他					1,430
繰越金	2,149,939	2,149,939	0						2,149,939
合計	3,393,439	3,333,729	▲ 59,710						

（支出の部）

節	予算額	決算額	比較増減額	説明	予算額	決算額
事務局費	132,500	93,981	▲ 38,519	連絡費	63,000	37,034
				事務費	10,000	2,300
				行事開催費	27,000	24,950
				旅　費	30,000	27,839
				手数料	2,500	1,858
会誌費	1,208,000	1,500	▲ 1,206,500	連絡費	7,000	1,500
				事務費	1,000	0
				印刷費	1,200,000	0
連絡誌費	170,500	145,065	▲ 25,435	連絡費	5,500	2,513
				事務費	15,000	14,454
				印刷費	150,000	128,098
発表会費	185,500	157,590	▲ 27,910	連絡費	33,000	23,605
				事務費	2,500	745
				印刷費	120,000	120,000
				行事開催費	15,000	13,240
				謝　礼	15,000	0
講座費	251,000	175,875	▲ 75,125	連絡費	23,000	12,805
				事務費	3,000	2,119
				印刷費	150,000	144,504
				行事開催費	30,000	9,577
				謝　礼	45,000	6,870
見学会費	73,000	43,112	▲ 29,888	連絡費	53,000	39,812
				事務費	5,000	0
				行事開催費	5,000	3,300
				謝　礼	10,000	0
ホームページ運営費	25,000	0	▲ 25,000	事務費	5,000	0
				謝　礼	0	0
				借上費	20,000	0
PDF化	9,500	0	▲ 9,500	連絡費	8,000	0
				事務費	1,500	0
				印刷費	0	0
予備費	1,338,439	0	▲ 1,338,439		1,338,439	0
合　計	3,393,439	617,123	▲ 2,776,316			

＊収入（　3,333,729　円）　－　支出（　617,123　円）＝次年度繰越金　2,716,606　円）

会計監査報告

2017年度の収支決算について、金銭出納簿、証拠書類等を精査し、預金残高と照合した結果、誤りなく適正に処理されていることを確認しました。

2018年4月10日

監　事　　鈴木 次郎

西川 修一

議事4　2018年度収支予算

2018年度収支予算（案）

（収入の部）

節	予算額	前年度予算額	比較増減額	説明
会費	858,000	933,000	−75,000	会費　3,000　×　286 名＝　858,000 会員数296名(顧問2名含)。うち8名は今年度会費納付済(顧問除く)。
機関誌等売り上げ	250,000	310,000	−60,000	発表会要旨・考古論叢・講座要旨等売上
雑収入	500	500	0	預金利子/雑収入等
繰越金	2,716,606	2,149,939	566,667	
合計	3,825,106	3,393,439	431,667	

（支出の部）

節	予算額	前年度予算額	比較増減額	説明		
事務局費	129,000	132,500	−3,500	連絡費	60,000	総会案内状、会費納入依頼等発送
				事務費	10,000	会議資料作成、既刊行物発送、消耗品購入
				行事開催費	27,000	総会・トピックス、役員会等会場使用料
				旅費	30,000	役員会等会議交通費（2016・2017年度分）
				手数料	2,000	振込手数料
会誌費	1,608,000	1,208,000	400,000	連絡費	7,000	事務連絡等の送付
				事務費	1,000	会議資料作成、消耗品購入
				印刷費	1,600,000	考古論叢24～27集発行・発送
連絡誌費	170,000	170,500	−500	連絡費	5,000	事務連絡等の送付
				事務費	15,000	会議資料作成、消耗品購入
				印刷費	150,000	連絡誌58号・59号の発行
発表会費	185,000	185,500	−500	連絡費	33,000	事務連絡等の送付
				事務費	2,000	会議資料作成、消耗品購入
				印刷費	120,000	第41回発表要旨発行、チラシ印刷および発送
				行事開催費	15,000	会場借上、会場博物館の展示入場券購入
				謝礼	15,000	外部講師依頼 15,000円×1人
講座費	250,000	251,000	−1,000	連絡費	22,000	事務連絡等の送付
				事務費	3,000	会議資料作成、消耗品購入
				印刷費	150,000	講座要旨の発行、チラシ印刷および発送
				行事開催費	30,000	会場借上、会場博物館の展示入場券購入
				謝礼	45,000	外部講師依頼 15,000円×3人
見学会費	73,000	73,000	0	連絡費	53,000	案内状等送付
				事務費	5,000	会議資料作成、消耗品購入
				行事開催費	5,000	博物館入館料等
				謝礼	10,000	協力者謝礼
ホームページ運営費	25,000	25,000	0	事務費	5,000	会議資料作成、ソフトウェア・消耗品購入
				謝礼	0	協力者謝礼
				借上費	20,000	サーバー使用料
PDF化	9,500	9,500	0	連絡費	8,000	事務連絡等の送付
				事務費	1,500	会議資料作成、消耗品購入
				印刷費	0	既刊行物のデジタル化
予備費	1,375,606	1,338,439	37,167			
合計	3,825,106	3,393,439	431,667			

平成29年度第 3 回見学会参加記

かながわの遺跡展
『群集する古墳』見学記

浅賀　貴広

天皇誕生日の 12 月 23 日 (土) に神奈川県考古学会 2017 年度第 3 回見学会に参加しました。今回は横浜市歴史博物館で開催されている『平成 29 年度「かながわの遺跡」展　群集する古墳』の展示見学及び展示担当の近野正幸氏による展示解説が行われました。

主な展示の対象となる時代は 6 世紀後半以降、7 世紀代の終末期を含む古墳時代後期です。最初に時代的な流れや県内の古墳群の分布状態、編年的な位置づけなどの図や解説文があり、円墳を主体とする群集墳とともに、丘陵の斜面に構築される横穴墓群も対象となっているとの説明がありました。両者は埋葬施設の造り方が異なっているが、副葬品などを比較しても階層的な上下の差ではなく、集団の違いと考えられているようです。

神奈川県の古墳時代後期は律令制下の武蔵国に属する横浜市の大部分と川崎市域の「南武蔵」地域、文献史学の研究成果から相模国は、酒匂川流域を主とする「師長国造」の支配領域、県央を中心とする「相武国造」の支配領域、鎌倉、三浦半島を中心とする「鎌倉別」の支配領域の 4 つの地域に分けて考えられて紹介されています。

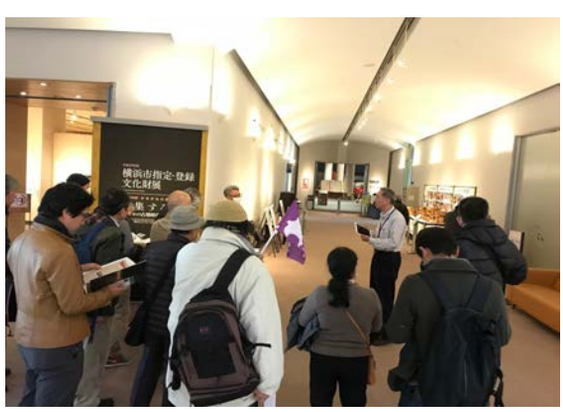
展示品は副葬品の中でも威信材とされます刀装具、馬具といった金属製品がメインの展示品となっています。県内の後期古墳の副葬品が一堂に展示されていて、大いに見応えがありました。しかし、鉄製品は全体が残っているものが少ないため、製品の何処の部分なのかがわかりづらく、その補足をパネルなどで示してくれれば、なお良かったのではと感じました。

個人的には鉄鏃が折り曲げられて、別の用途に使用されている例が紹介されていることと、毛抜形鉄製品と呼ばれるものの頭頂部の環にした鉄製品が組み合わされている例があることを知れたことが大きな収穫となりました。

横浜市歴史博物館にて

展示解説は 30 分という時間が少ない中で、必要な事項の解説がなされて理解が深まりました。

展示解説後に同室で開催されていた『平成二十九年度　横浜市指定・登録文化財展』の展示解説が横浜市歴史博物館の担当学芸員により行われました。こちらでは横浜市港北区の西方寺の平安仏、木造十一面観音菩薩立像を始め、日本丸の設計図面が展示されており、考古学と関係する事柄として、公益財団法人かながわ考古学財団による金沢区の上行寺所有の嶺松寺址と千葉氏ゆかりの地で悉皆的な墓石の拓本調査の紹介がされました。



見学の様子

平成30年度第 1 回見学会参加記

「発掘された日本列島2018」見学記

小坂　延仁

平成 30 年 7 月 21 日（土）午後、江戸東京博物館での会期（平成 30 年 6 月 2 日～ 7 月 22 日）が終了間近となっていた「発掘された日本列島 2018」展を観覧しようと、現地へ赴いた。会場前で岡本孝之氏らを見かけ挨拶したところ、ちょうど神奈川県考古学会見学会の集合待ちであったため、会員外ながらもご好意で随行させていただけることとなった。思えば、昨年度も江戸博および綾瀬・海老名にて当会の見学会と鉢合わせており、会の方々には随分と親しく接していただき、ありがたい。

新発見考古速報として取り上げられた遺跡は、旧石器から近代初頭の 17 遺跡で、時代毎で大きな偏りはなかった。今年度の特集は装飾古墳の世界で、被災した東北および熊本の古墳と併せ紹介がされていた。地域展示は東京郷土資料陳列館を取り上げた特集であった。

会場の入り口正面には一昨年度に総括報告書が刊行され、昨年度には特別史跡に指定された加曽利貝塚の貝層標本が鎮座していた。その様は、学史的にも重要な位置にある加曽利貝塚の価値を改めて浮き彫りにしてみせているようで、印象深かった。今年度も調査が進められているとのことで、久しく赴いていないが、現地へ足を運ばねばと思わされた。同じく縄文時代の遺跡で取り上げられていた愛知県の保美貝塚もまた学史的に重要な遺跡である。一昨年度に刊行された報告書では、北陸でみられるものと

江戸東京博物館にて

規模や時期の似通った環状木柱列の他に多様な地域の土器や石器（石材）が報告される等しており、加曽利貝塚同様に、学史的な遺跡から新たな研究の展開を期待させるものであった。

他には福岡県の須玖タカウタ遺跡の土製を含む多数の青銅器の鋳型、熊本県の上代町遺跡群の木製品が弥生時代中期の生産体制を窺うことのできる資料として注目された。よろいを着た古墳時代人として広く話題となった金井東裏遺跡は、周辺遺跡の調査成果と併せた総合的な評価が進められている。その端緒ともなったこの極めて良好な遺存状態の遺跡の価値はやはり計り知れないものであったと感じる。岩手県の伏津館跡の出土資料には、城館ながらも豊富な茶道具や意匠をこらした文房具が含まれており、高い教養とそれを支えるだけの地力を垣間みることができた。

本巡回展における本年度最終会場は川崎市市民ミュージアムである。期間は平成 31 年 1 月 8 日～ 2 月 17 日とのことで、今回とは別になる神奈川県の地域展示も注目される。江戸東京博物館の展示を見た方も見逃した方も、再びの観覧の機会を活かし、足を運んでみてはいかがであろうか。

第 42 回　神奈川県遺跡調査・研究発表会

2018 年 11 月 18 日 (日) 開催！

会場：秦野市　堀川公民館多目的ホール

定員：事前申し込み不要　入場無料（資料は有料）

※会員の皆様へは別に詳細をお知らせします。
　会場への直接のお問い合せはご遠慮ください。

第 2 回見学会のご案内

本年度第 2 回見学会は、鎌倉歴史文化交流館を見学します。企画展に合わせ 11 月 24 日に実施いたします。奮ってご参加ください。詳細は同封のチラシをご参照ください。

神奈川県考古学会 2018 年度 第2回見学会のお知らせ

日　　時　2018 年 11 月 24 日（土）14:00～
※開館は 13:30 頃の予定（現地集合）

内　　容　鎌倉歴史文化交流館「企画展　出土須恵器の美」
同時開催：明治 150 周年記念古写真展「激動の鎌倉」

鎌倉では、中世の人々が日常的に使用した須恵器が数多く出土し、なかでも、鶴岡地区を中心で文様を施した須恵器が特や数は、国内でも、突出した出土例を数えます。
赤い焼土で彩られた須恵器文様は、さまざまなバリエーションを示しつつも、いずれも和文様を出発し、そこに一定の共有観念がみったことがうかがえます。一方でそれらの表現はきわめて個性的でもあり、近世の横浜を先取りするかのような発現で機知に富んだ作も多く見られます。
企画展では、日常的須恵器及びこれ中世の人々の信仰で使用された須恵器類を中心に、鎌倉で出土した須恵器関係遺品や、須恵器作に使用された道具類、さらに伝統の鎌倉都や柴頭などを一堂に展観し、中世における須恵の生成手法や様態と、中世の人々の信仰性について探っていきます。

編集後記

今年度も昨年と同様のメンバーで活動していきます。様々な情報を発信していきますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。また、次号も見学会の参加記を掲載する予定です。参加記を投稿してみたい方がいらっしゃいましたらお待ちしております。

保管期間終了書籍の無償配布

2016 年度の総会で承認されたように、当会刊行書籍刊行後、「考古論叢神奈河」「講座資料」においては 5 年、「調査研究発表会発表要旨」においては 3 年を経過（年度単位）したものについては、会員等に無償配布できることとなっております。現在の主な配布は『考古学講座資料ー時空の交差点 (遺跡の保存と活用) ー』(2013 年発行) です。

ご希望の方がおられましたら、希望書籍を明記の上、当会へメールもしくはハガキにてご連絡ください。残部部数は限られております。

連絡先
事務局：〒 232 － 0067
横浜市南区弘明寺町 201　岡本孝之　方
メール：soumu@koukokanagawa.com

考古かながわ　第 60 号
発　行　神奈川県考古学会
発行日　2018 年　10 月 18 日
印　刷　㈲湘南グッド
発行者　神奈川県考古学会　会長：岡本孝之
編集　連絡誌担当 (工藤・西田・古田土)
郵便振替　00240-9-71208
E-mail　soumu@koukokanagawa.com
URL　http://www.koukokanagawa.com